

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：28003

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593397

研究課題名(和文) 医療的ニーズのある子どもの保育・看護を実践するためのシステム作りに関する研究

研究課題名(英文) A study about the systematization to practice the childcare and nursing for children who need medical-care.

研究代表者

金城 やす子 (KINJO, YASUKO)

名城大学・健康科学部・教授

研究者番号：90369546

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、保育所看護師の実態を明らかにし、保育所における保育看護を実践するためのシステム作り、保育所看護師のサポートネットワークの構築を図るための基礎的研究である。全保育施設の約3割に看護師が配置され、子どもや保護者への指導、対応がおこなわれていた。

本研究は研究フィールドにおいて、保育園看護師研修会を計画し、看護師の質向上を図るためのサポートシステムを構築した。本研究がおこなった介入研究は、定期的な研修会・勉強会の開催、最新の医療情報の提供や課題解決に向けたディスカッション、専門家による講演会、個別相談等であり、この取り組みが安心した業務の提供に繋がっていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to clarify the state of nursery school nurses, furthermore create a system to realize childcare and nursing in nurseries and build a support network for nursery nurses. Approximately 30% of all nursery facilities had nurses deployed and provided guidance and support for children and guardians.

In this research I targeted research fields to plan nursery nurse training workshops and study groups and constructed a support system to work toward the improvement of nursing. The intervention study conducted in this research consisted of holding periodic training workshops and study groups, discussions geared toward providing the latest medical care information and solving issues, lectures by specialists, individual discussions, etc., and it showed that these efforts lead to the provision of work duties with a feeling of security.

研究分野：小児看護学分野

キーワード：保育園看護師 サポートシステム サポートネットワーク 保育園看護師研修会

1. 研究開始当初の背景

入院を経験した子どもや障害のある子どもの保育所利用は多い。現状の小児医療は、できるだけ在宅で、普通の子どもと同じような生活をするにより、治癒をめざしたり、疾患を抱えながら通常の生活を行う方針をとることが多い。そのため、医療的なニーズがある子どもにとって、保育所に看護師がいることは、医療面に関する安心や緊急時の対応が可能となること等、安心した生活環境が維持できる。病児・病後児、また障害のある子どもにとって、看護師の配置は安心した生活を維持するためには不可欠な問題である。

保育所の看護職配置については、1969年、1977年の厚生省通達において示され、乳児保育を基本として配置が進められるようになり、約30~40年が経過している。保育所では嘱託医の制度を取り入れ、保健・医療に関しては指導的な役割を果たすようにしてきたが、嘱託医の来園回数や巡回時間の不適切性などから、嘱託医と看護師が連携を図り、実際の保育の場での対応を図るようになった。全国保育園保健師看護師連絡会(2007)によると、平成19年現在、保育所には約5000人の看護職が働いているとされている。また、福井(2011)は、各都道府県の保育所看護師の平均配置率は20%程度であると述べている。

しかし、全国的な看護師不足や待遇上の問題、また看護師の経験不足から十分な健康支援ができないことなどの理由により、看護師が定着せず、看護師の確保に苦労している保育所が多いとの実態もみられる(厚生労働省, 2008)。多様な保育ニーズのある保育所が、子どもと保護者、職員の健康を保持し、子どもを中心とした保育が実践できるためには、看護師の配置が必要であり、看護師としての十分な役割を果たすことが求められる。

「保育士資格がないため、保育に自信がない。」「看護師としてどのような業務をしたら

よいかかわからない。」「小児の経験がないので不安」など、保育所看護師からさまざまな意見が聞かれている。また、一緒に業務をする保育士からも「看護師としての仕事をしてほしい。」「もっと、積極的に仕事をしてほしい。」「もっと、積極的に仕事をしてほしい。」などの意見があり、保育所看護師の実態把握、現状の問題を明確にすることが必要ではないかと考える。吉川(2011)、藤城・宮崎・国分・杉山・上別府(2011)らが保育所看護師の役割について報告しているが、保育所看護師の配置推進に向け、どのような課題があるのかを明らかにし、子どもの健康支援を進める職種としての看護師の業務基準の明確化、そのための研修システムの構築、さらに各園の連携、相互のサポートを可能にするローカルサポートネットワークの構築をすすめる。

2. 研究の目的

本研究では、病児・病後児や障害のある子どもの保育に関与する保育所看護師の実態を明らかにし、子どものQOL向上に果たす役割、さらに保育所における保育看護を実践するためのシステム作りと保育所看護師のサポートネットワークの構築を図るための基礎的研究を目的とする。

3. 研究の方法

研究方法は、調査研究及び介入研究を取り入れた。調査研究では全国の保育所、保育園の園長、看護職を対象に質問紙調査、研究フィールドの看護師、保育園園長、保育士等を対象に質問紙調査、3年間定期的な勉強会、研修会を開催する介入研究を実施した。

[研究1]「0県の保育所看護師の実態調査」0県のA地区を対象に、保育所看護師の実態と現状の問題、課題を明らかにする。

[研究2]「全国の保育所看護師の実態調査」全国の公立、私立の保育所を対象とした調査を実施し、看護職配置の実態、業務内容、現

状の課題の明確化を図る。

[研究3]「0 県の保育所看護師のネットワーク作り」

一人配置の保育所看護師が、業務上の問題や子ども支援の在り方等に関する内容を話し合う場の設定を行い、保育における看護師の役割を明確にする。

[研究4]「保育所看護師の業務内容の明確化」

保育所看護師のネットワークに参加する看護師を対象にグループインタビューを実施し、業務内容の整理及び業務の明確化、業務基準の作成を行う。

[研究5]「保育所看護師の研修システムの構築」

保育所看護師の役割、業務内容、保育実践等に関する研修会の開催を通して、研修システムを構築する。

4. 研究成果

【研究1：0 県の保育所看護師の実態調査】

日本保育学会において、「保育所看護師の配置の実態と役割意識 - 沖縄県内の保育所長を対象とした質問紙調査から - 」として、0 県保育園看護師配置実態調査の結果をまとめ、研究報告を行った。(発表者:金城やす子)

「保育所看護師の配置の実態と役割意識 - 沖縄県内の保育所長を対象とした質問紙調査から - 」(以下に抄録を表示)

はじめに

最近の保育所は、入所児童の低月齢化や障害児保育、病後児保育、アレルギー除去食児の対応など、医療的な面での支援がより多く求められるようになってきた。そのため、厚生労働省はこのような支援を実践する職種として看護職の配置をすすめる、保育所保育指針の改定を機に、看護師配置を推進するようになった(日本保育園保健協議会, 2007)。しかし、全国的な看護師不足や待遇上の問題、また経験不足による不安から看護師が定着せず、その確保に苦労してい

る保育所が多い。また、実際に配置されている看護師を対象とした勉強会では「どのような業務が求められているのかわからない」などの意見があり、十分な配置状況にないことが伺える。そこで、どの程度の看護師が配置されているのか、またどのような役割が期待されているのか看護職配置の実態に関する調査を行った。

研究目的

沖縄県の保育所における看護職配置の実態および看護職配置における問題点、看護職に期待される役割について明らかにする。

研究方法

沖縄県内の保育所長(園長)を対象に質問紙調査を実施した。364 施設に配布し、176 施設から回答を得た(回収率 48.4%)。本研究は M 大学の倫理委員会の承認を得て実施した。対象者の匿名性や守秘性、データの扱いや公表、また研究への同意については回答返送されることで同意されたとする旨、文書で説明した。

結果

1. 看護職配置の実態

看護職を配置していると回答したものは 56 施設(31.8%)であり、地域別では都市部が 46.4%と多く、北部や離島は 5~7%の配置であった。また、保育所の規模として収容数 60 名以下の小規模、100 名以下の中規模、101 名以上の大規模と比較した結果、中、大規模の 4 割以上に配置されており、規模別には有意な差($\chi^2=18.57$, $df=2$, $P=0.00$)がみられた。0 歳児の人数別で比較した結果($\chi^2=44.35$, $df=1$, $P=0.00$)、0 歳児の人数が少ない保育所では配置率が低いことがわかった。配置されている看護職の種類では看護師が 51 名、准看護師が 4 名であり、その他の医療職の配置はなかった。

看護師配置の必要性について 5 件法で尋ねた結果、「とても必要」「必要」を合わせ 83.5%が必要であると感じていた。看護師を配置している保育所では全員が必要という回答であったが、配置されていない保育所の理由として「適任者がいない」「経済的な問題がある」「0 歳児が少

ない」に3~4割の所長が回答していた。また他職種との関係が難しいとする回答も15.4%にみられた。

2. 看護師の業務として希望する内容

保育所の長は、看護師が保育所においてどのような業務を行っているのか、また、どのような業務を行ってほしいと考えているのかを調査した。最も希望する内容は「病気やけがをした場合の医療的判断」「小児の感染症の判断」が7割以上であり、保育業務や保護者、保育士の健康に関する内容については2~4割程度が希望すると回答していた。提示した業務内容15項目を因子分析(主因子法、バリマックス回転)した結果、第1因子『医療的な判断・対応』、第2因子『栄養的な面への対応』、第3因子『医療的なニーズがある子どもへの対応』、第4因子『精神的な発達に関する対応』の4因子が抽出された。

また、保育所の所長(園長)は、看護師の配置に関してどのような問題を感じているのかを尋ねた。最も多かったものは給与面、待遇に関する問題であった。次いで看護師が専門性を発揮できていないこと、さらに医療的な面に対する知識や技術が不足していることを問題ととらえていた。また、子どもや保護者とうまく関われないこと、業務への積極的な姿勢がみられないことについても、2割弱のものが問題と感じていた。

看護師の配置について公立の保育所からは、「市町村が対応しない限り園での単独配置はできない。必要時は嘱託で保健師が対応する」という記述がみられた。

考察

保育所への看護師配置の実態を調査した。これまでの調査に示されていた配置率(木村, 2006; 福井, 2011)とほぼ同様の結果であった。しかし、沖縄県では都市部での配置は進んでいたが、郡部や離島の配置は十分ではない状況がみられた。また、0歳児の数で看護師の配置を検討している施設が多く、さらに公立だから無

理と検討の余地のない回答を示す施設もみられた。医療面に関するニーズがある子どもにとって、保育所に看護師がいることは安心した環境を得ることができると同時に、緊急時の対応が可能となることから、安心した保育につながると思われる。看護師には医療的な面での対応、特に処置の対応や判断が求められている。しかし、医療面への知識や技術の不足を指摘する声もあり、保育所には看護師経験の豊富なものの配置が望ましいと思われる。しかし、看護師不足は社会的な問題でもある。保育所への配置については看護師の質や絶対数の不足など、解決すべき問題が多すぎると感じる。

おわりに

調査を実施し、保育現場で働く看護師の実践内容や問題点の把握、問題への対応などが十分把握されていないと感じた。今後は看護師を対象に調査をすすめ、保育所看護師サポートシステムを確立したい。

【研究2: 全国の保育所看護師の実態調査】
第20回日本保育園保健学会において、全国の保育園の実態調査の結果について報告した。また、保育所に勤務する看護師が小児看護経験がないため、職場適応が難しい状況にあることから、保育園看護師の臨床経験を調査した。その結果を第5回アジア子ども支援学会で「保育所で勤務する看護職の臨床経験および求める支援」として発表した。(発表者: 金城やす子)

【研究3: 0県の保育所看護師のネットワーク作り】

A地区で行った介入研究の結果、サポートシステムの有効性について沖縄小児保健学会で報告した。

【研究4: 保育所看護師の業務内容の明確化】

A地区保育園看護師の業務内容を調査し、保育園看護師業務マニュアルを「ハンドブッ

ク」として自費作成した。

【研究5：保育所看護師の研修システムの構築】

沖縄小児保健学会において、「保育園看護師の支援体制の構築に向けて - 定期的な勉強会・研修会の実際とその意義 - 」と題して、支援ネットワークについて報告した。報告内容は、八重瀬フィールドで実施している研修会の内容および研修会の意義について報告した。発表内容は論文としてまとめ、学会誌「沖縄の小児保健」に掲載された。(報告者:金城やす子、比嘉憲枝、神谷昌美、山城枝里子)

【文献】

全国保育園保健師看護師連絡会 (2007) 保育所保育指針の改訂にあたっての保育園看護職からの意見，

日本保育園保健協議会 (2007) 保育所保育指針改定に関する検討会中間報告会に対する意見．

厚生労働省 (2008) 第7次看護職員需給見通しに関する検討会．

福井逸子 (2011) 保育所における病児・病後児保育の必要性，保育学研究，49 (1)，63 - 72．

吉川慶子 (2011) 保育園でできる健康支援と看護師の役割，保育と保健，17 (1)，87．

藤城富美子・宮崎博子・国分麻紀・杉山志保・上別府圭子 (2011)，保育と保健，17 (1)，85 - 86．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5件)

金城やす子，松下聖子，鈴木恵 (2012) 医療的ケアを要する在宅療養者 (児) の台風災害への対処方法 - 2011 年台風 9 号接近時の避難状況 - . THE ASIAN JOURNAL OF DISABLE SOCIOLOGY， No 12 . 75-84.

KINJO Yasuko，MIZUKAWA Chie，SUZUKI Megumi，MATUSHITA Seiko(2013)Home Care

Support Needs and Initiatives for Physically-challenged Children and their Guardians Children who Require Medical Help，The Japanese journal of Pediatric Hematology/Oncology，Vol 50(4) .598-606.

金城やす子，比嘉憲枝，神谷昌美，山城枝梨子 (2015) 保育園看護師の支援体制の構築に向けて - 定期的な勉強会・研修会の実際とその意義 - ，沖縄の小児保健，65-70．

Kinjo Yasuko，Hatta Saeko，Matushita Seiko(2014)The child care and education needs of guardians bringing up children with severe disabilities，The Asian Journal of Disable Sociology，14．

金城やす子，八田早恵子 (2015) 保育園における障害児や医療的ケア児の受け入れと課題 - 保育園看護職の配置との関連において - ，保育と保健，21 (1)，37 - 40．

〔学会発表〕(計 14 件)

金城やす子 (2012) 保育所看護師の配置の実態と役割意識 - 沖縄県内の保育所長を対象とした質問紙調査から - ，第 65 回日本保育学会．

金城やす子，松下聖子，鈴木恵 (2012) 医療的ケアを要する在宅療養者 (児) の台風災害への対処方法，アジア障害社会学会 (韓国)．

北野雅，松崎裕美，斎藤圭子，岡田真由美，白川洋子，福島敬，須磨崎亮，金城やす子 (2013)，子どもの人数に応じた保育士配置の必要性第 17 回日本医療保育学会，(名古屋ウィンクあいち)．

松下聖子，金城やす子 (2013) 在宅で生活している 13 トリソミー児の災害への備え，沖縄県小児保健学会．

金城やす子，比嘉憲枝，神谷昌美，山城枝梨子 (2013) 保育園看護師の支援体制の構築に向けて，沖縄県小児保健学会(那覇市)．

金城やす子，松下聖子，八田早恵子 (2013) 保育園看護師支援体制の必要性とネットワークの構築，第 2 回小児医療多職種研究会，八戸市民会館 (青森)．

金城やす子 (2013) “気になる子どもの保育” 講演会参加者の学び - 講演会参加者対象の質問紙調査の結果 - , アジア子ども支援学会, ノーフォークホテル (ベトナムホーチミン市).

金城やす子 (2013) Home Care Support Needs and Initiatives for Physically-challenged Children and their Guardians Children who Require Medical Help , The Asian Journal of Disable Sociology,13 ,(ベトナム ホーチミン市).

金城やす子 松下聖子 八田早恵子 (2013) 保育園看護師支援体制の必要性とネットワークの構築, 日本保育園保健協議会, (札幌藤女子大).

西村美穂, 小野綾花, 安心院朗子, 西館有紗, 吉岡尚美, 金城やす子, 水野智美, 徳田克己, 白石晴香 (2013) 保育所における乳幼児への花粉症の影響, 第72回日本公衆衛生学会, 三重交流会館(三重県津市).

金城やす子 (2014) 保育所で勤務する看護職の看護経験及び支援体制のあり方, アジア子ども支援学会, (台北).

金城やす子, 八田早恵子, 松下聖子 (2014) The child care and education needs of guardians bringing up children with severe disabilities, アジア障害社会学会, (台北).

金城やす子, 八田早恵子 松下聖子 (2014) 保育園における障害児や医療的ケア児の受け入れと課題, 保育園保健学会, (東京・中野).

八田早恵子, 金城やす子, 松下聖子 (2014) 保育園で働く看護職が感じる保育保健に関する業務上の困難感, 保育園保健学会, (東京・中野).

[図書](計 1 件)

保育園看護師業務マニュアル (自費)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金城やす子 (KINJO YASUKO)

人間健康学部看護学科 教授

研究者番号: 90369546

(2) 研究分担者

比嘉憲枝 (HIGA NIRIE)

人間健康学部看護学科 准教授

研究者番号: 40326509

松下聖子 (MATUSITA SEIKO)

人間健康学部看護学科 准教授

研究者番号: 00572538

安里葉子 (ASATO YOUKO)

人間健康学部看護学科 准教授

研究者番号: 70316222

(3) 連携研究者

外間尚美 (のびる保育園園長)

長嶺久美子 (港川保育園園長)

神谷昌美 (のびる保育園看護師)

山城枝里子 (港川保育園看護師)